

ICTを活用しながら、生徒がそれぞれの目標に向かって学ぶ

東京都・私立新渡戸文化中学・高校

生徒が自ら学びの目標や意味をつくり出し、「自律型学習者の育成」を目指す東京都の私立・新渡戸文化中学・高校。英語の授業においても、生徒それぞれが英語を学ぶ目的を持ち、それを実現するためのツールの1つとしてICTを活用している。

学びの目標や意味を 生徒自身がつくり出す

東京都の私立新渡戸文化中学・高校は、学校の最上位理念に「自分と社会の幸せをデザインできる『Happiness Creator（幸せ創造者）』の育成」を掲げ、教科学習を始めとした教育活動全体で「自律型学習者の育成」を推進している。それは、入学時に生徒の学習に対する意識を転換させることから始まると、統括校長補佐の山本崇雄先生は語る。

「生徒の多くが持っている『教科書を学ぶことが学習』という固定観念を、『やりたいことを実現し、なりたい自分になるために学ぶ』という発想へと導きます。勉強が得意ではない生徒も、自らが学びの目的や意味を見いだすことによって、主体性が芽生え、自律的に学び始めます。そのように、生徒が学びに向かうような授業をデザインすることが、学校や教員の役割だと考えています」

山本先生が担当する英語の授業も、そのビジョンを具現化するものになっている。例えば、年度始めに設ける「エンゲージメント」という期間は、生徒が明確な学習目標を持てるようにすることが目的だ。2020年度の中学1年生は、オンライン会議システムで海外の同世代の人たちと互いに自己紹介を行った。趣味や生活の話をするうちに、生徒は「自分のことを相手にもっと分かってもらいたい」「素敵な英語の表現を使いたい」といった思いを抱く。そのように、英語学習の目的を持たせた上で、年間の学習目標を「自己紹介を



写真 英語と数学のクロスカリキュラムでは、英語と数学の両方をつなぐものを校内で探し、タブレット端末のアプリで表現する創作活動を行った。

アップデートする」と設定。以降、1年間かけて学ぶ英語の授業は、生徒が自身の自己紹介の力を伸ばすための時間となる。

「コミュニケーションをする相手に伝えて伝えたい内容は変わり、使う語彙も変わります。それらを習得するためには、どういった学びが必要なのかと生徒自身が考え始めたところで、語彙や文法の学習が欠かせないことを私たち教員が気づかせ、教科書やICT機器を使って学ぶ方法を教えていきます」（山本先生）

山本先生の授業では、教科書は数ある学習教材の1つという位置づけだ。例えば、「昨日の出来事を相手に紹介したいから、過去形の表現を教科書で学んでみよう」といった使い方を。適切な学習目標を設定することで、教科書「を」学ばなくても、学習指導要領が規定する指導内容は自然と修得できるといふ。

生徒の基礎学習と 創造性の発揮を支えるICT

生徒1人が1台持つタブレット端末も効果的に活用する。その1つは、デジタルドリルを使った語彙や文法の基礎学習だ。生徒個々の課題に応じた学びができるデジタルドリルは、基礎学習の効果が上がりやすいと、山本先生は語る。

「例えば、『単語が分からない』といっても、『意味を知らない』『書けない』『読めない』など、『分からない』内容は一人ひとり異なります。デジタルドリルはAI化が進み、生徒の解答から理解できていない点を判断した上で解説し、次の出題をしてくれるものもあります。個に応じた学びを実現しやすいのです」

さらに、創造的な活動では、タブレット端末が生徒の発想の具現化を支える。描画機能を使って英語の絵本を制作したり、作曲のアプリで英語の歌をつくったりと、タブレット端末によって生徒の表現の幅は広がっていく（写真）。

「ICT機器を使うと、紙と鉛筆のみの活動に比べて、驚くほど質の高い作品が生まれます。授業での活動を通じて、英



統括校長補佐
山本崇雄

やまもと・たかお

東京都の公立高校等に勤務後、2019年度から現職。横浜創英中学高校の教育アドバイザーや日本パブリックリレーションズ研究所の主任研究員なども務める。

学校プロフィール

◎子ども園、小学校、中学・高校、アフタースクール、短期大学を擁する総合学園。小・中・高で「自律型学習者の育成」を目指し、PBL型授業を中心としたカリキュラム編成で教育改革を推進している。

生徒数 中学校1学年1クラス、高校1学年3クラス

URL <https://www.nitobebunka.ac.jp/>

語力とともに、表現力や創造力、感性も磨かれていると感じます。よりよい作品をつくるには基礎学習が必要だと生徒自身が理解すると、それぞれの学びを意味のあるものと感じ、生徒は一層主体性を発揮していきます」（山本先生）

同校では、コロナ禍に伴う臨時休業中、タブレット端末を活用してオンライン授業を実施した。ウェブ上の掲示板のサービスを活用して、「音読に挑戦」「英語で自己紹介」「相手が幸せになる英語を考える」などの課題を山本先生が提示。生徒は、自分のスピーチを撮影した動画や英文の作品などを投稿する形で提出した。

山本先生は、4月に新学習指導要領が全面实施された後も、現在の指導方針を継続していくと話す。

「本校の指導方針の1つに、『教科を学ぶ意味や面白さを実感させるとともに、各教科の専門性を生徒一人ひとりの人生にどう生かしていくのか導く』という考え方があります。それは、新学習指導要領の方向性と重なります。生徒が主体的に学ぶ中で、教科の学習をいかに位置づけるかを意識しながら指導していくことが、今後ますます重要になるのではないのでしょうか」（山本先生）